

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2009年8月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2009.html)

「産業応用部門編修長に就任して」



編修長 大石 潔

この度、林洋一先生の後任で産業応用部門編修長に就任することになりました。初代編修長の深尾正先生と前編修長の林洋一先生の約4年間の編修長補佐の経験を基に、この大役を精一杯果たしていきたいと存じます。どうぞよろしくお願いたします。

産業応用部門は、他部門に先駆けて、編修長という役職を設置しました。電気学会においても、産業応用部門においても、学術論文は最も大切な財産であり、学会の価値と将来性を決めるものであると、私を含め会員全員が認識していると存じます。

そのような観点に立って、約300名の委員で構成される論文委員会において、論文査読業務や特集号企画業務などの責任を負う者として、編修長が設置されたと思っております。会員の皆様と一緒に、より価値の高い論文誌をつくりたいと思っております。

産業応用部門では、他部門に先駆けて電子投稿システムの運用を行いました。査読期間の短縮が一番の目的です。平成17年度は8.70ヶ月、平成18年度は8.32ヶ月、平成19年度は7.10ヶ月です。以上の数字に見られるように、その効果は確実に出ています。しかし、平成19年度のB部門は6.5ヶ月であり、C部門は6.9ヶ月ですので、まだまだ、産業応用部門誌の査読期間は短縮できると考えております。

主査、副主査、特集号エディタなどで構成される論文委員会主査会においても、常に査読期間の短縮化を議論しておりますが、これ以上の短縮を図るためには、やはり、査読の迅速化が一番です。そのため、論文委員に論文が回った段階で、査読がすぐできるか否かを委員自身に判断させるシステムの導入など、電子査読システムの改良も行いたいと思っております。

さらに、産業応用部門大会の論文委員の意見交換会にお

いても、多くの方から意見をお聞きし、できるだけ反映させて行きたいと考えております。

既に現在までの電気学会産業応用部門誌の電子化が完了しました。つきましては過去の論文を特集でまとめたアーカイブスの発刊を計画しております。学会の財産である学術論文の2次利用です。企業や大学において、研究及び教育の資料として有効活用できるものと思います。ある特定したテーマに関して、例えば「高調波対策」など、10～15件程度の学術論文のアーカイブスを編集して発行することを、2年間の編修長の間に行うことを予定しております。

国際化に伴い、外国の学会と電気学会の共催による研究会が開催される機会が多くなりました。共催の研究会の場合も、電気学会単独開催の研究会と同様に、論文誌（産業応用部門誌）へ投稿できます。このような国際的な研究会論文がどんどん学術論文として電気学会に投稿してもらえる様に、国際的にも価値の高い論文誌にしなければならないと思っております。そのためには、海外（外国）の論文委員の充実、論文掲載料の値下げなどが課題となります。論文掲載料の値下げは随分前から課題ですので、少しでも前に進めたいと考えております。電気学会の全部門が電子投稿システム（電子査読システム）になりましたので、論文誌発行までの諸費用はかなり軽減できると思います。さらに、アーカイブスの発刊による論文誌の2次利用収入が見込めるとなれば、論文掲載料の値下げを積極的に産業応用部門から提案していきたいと思っております。

最後に、論文委員会メンバーの皆様には大変なボランティアを強いていることを良く理解しております。質の高い論文誌を維持するためには、論文委員全員のボランティアに頼るしかございません。今後ともご協力とご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。